

## 気象変動に強い稲づくりは「土づくり」が基本

異常気象に打ち勝つ高品質で安定的な稲づくりには、土台となる土づくりが最も重要です。収穫を終えた土に養分を補給し、次年度の作付けに備えましょう。

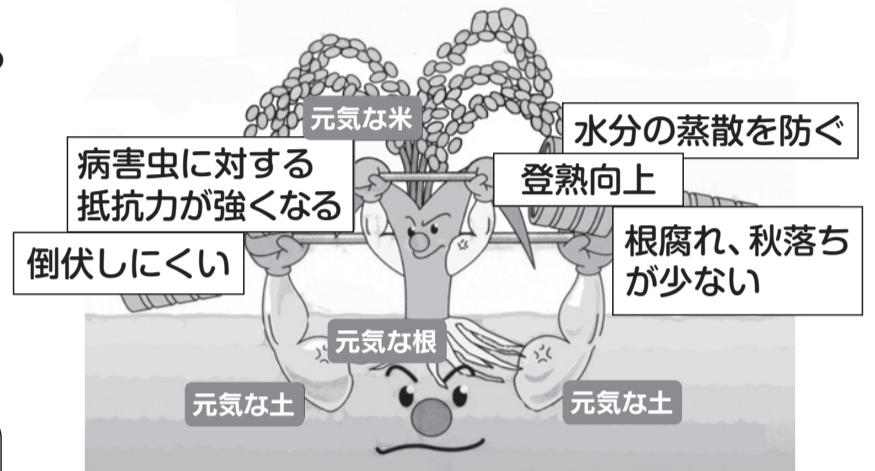
### 1. 土づくり資材の施用でケイ酸を補給

ケイ酸は稲体の基となる重要な成分ですが、自然界から供給されにくいいため、稲作では特に補給が必要です。

また、アルカリ分は土壌の酸性を矯正するため、養分吸収の向上やカドミウムの吸収抑制に有効です。

下表のいずれかの土づくり資材を継続して施用し、高品質米の安定生産につなげましょう。

●自ら土づくり資材を散布できない方は、JAアルプスの各営農センターにご相談ください。



【土づくり資材の施用効果】

【土づくり資材の特徴と施用量の目安】

資材名	特徴	ケイ酸分 (%)	アルカリ分 (%)	10aあたり施用量
粒状ケイカル	ケイ酸を供給して茎や葉が強くなる 倒伏やいもち病に対して抵抗力が増す	30.0	44.0	200 kg
元 気	ケイ酸、苦土の他、有機質15%入り	24.0	32.0	100 kg
シリカロマン	ケイ酸の他、鉄、リン酸、苦土が一度に供給可能	25.0	45.0	
シンキョーライトP	天然ミネラルを含み、根張り促進、保肥力の改善	(66.1)	—	100 kg

### 2. 有機物の施用で地力をつける

堆肥等の有機物の施用は、土壌の保水性や通気性が良くなり、肥効を持続させる効果があります。下表のいずれかの堆肥等の施用や、地力増進作物の作付けにより地力を高めましょう。

【堆肥等施用の目安（10aあたり施用量） 秋施用】

牛ふん堆肥	豚ふん堆肥	発酵鶏ふん	糶がら堆肥
1～2 t	1～2 t	100～150 kg	1～2 t

【地力増進作物の栽培（冬作物）】

作物名	播種時期	播種量	基肥
ヘアリーベッチ	水稲収穫後～10月中旬	3～5 kg / 10a	不要
レンゲ	水稲収穫後～10月中旬	3～4 kg / 10a	不要

JAアルプスでは、土づくり資材や有機物等を散布した場合、助成を行っています。

○ケイ酸質資材や有機物（鶏糞等）を散布した場合、10aあたり150円の助成（土づくり支援）など

（※ただし、JAアルプスから購入された資材のみ対象となります）

詳しくはJAアルプスへお問い合わせください。

### 3. 秋耕しで稲わらをすき込む

秋耕しは地温の高い10月中に行い、稲わらや籾殻を腐熟させましょう。

秋耕し後は、腐熟促進のため排水溝を設置して水尻にしっかり連結し、ほ場の排水に努めましょう。

＊ ＊ 9月15日～11月15日は「秋の土づくり運動」期間です ＊ ＊

バップ ギャップ

# ～BAPをGAPに変えて、安全・安心なアルプス米を！～

不適切な農業（BAP）を改善することにより、適切な農業（GAP）の実現につながります。  
JAアルプス管内で取り組まれた事例を参考に、できることからGAPの実践に取り組みましょう。

## 1 GAPとは？

- GAPとは、Good Agricultural Practice の略で、直訳すると「**良い農業の実践**」となります。
- 「良い農業」を判断する視点には、次の3つがあります。



GAPはこれら3つの視点から、農業生産活動に潜むリスクを把握・分析して、そのリスクの発現を未然に防ぐ取り組みです。

**生産者のみなさん自らが生産活動を点検・改善していきましょう。**

## 2 GAPの実践

JAアルプスから配布されている**GAPチェックシート**を利用しましょう。



※点検・改善・実践を繰り返して、継続的に取り組みましょう。

## 3 GAPの取組事例



### 燃料の適切な管理

燃料の取扱いは消防法で定められています。燃料タンクは、燃料流出防止用の防油堤や消火器の設置、火気厳禁の表示等、安全で適切な管理を実施しましょう。



### 廃棄物の適切な処理

産業廃棄物は分別し、適正に処理をしましょう。農業用廃プラスチック類は、産業廃棄物処理業者に処理を委託することなどが法令で定められています。



### 安全作業のための危険農道の改善

橋の勾配を緩やかにし、橋幅も広げ、転倒の危険を回避した事例です。事故の危険性が高いところを確認し、安全に作業ができるような整備を実施しましょう。

### お知らせ

JAアルプスでは11月4日(水)に農業用廃プラスチック・廃棄農薬の回収を行います。回収場所は立山および滑川配送センターです。詳しくは、『広報アルプス10月号』でご確認ください。